

特254

375

パンフレット第一輯

共存主義概要

大日本共存青年會

始





昭和元年 十二月廿八日 踐祚後朝見ノ儀ニ於テ賜ハリタル勅語

朕皇祖皇宗ノ威靈ニ頼リ萬世一系ノ皇位ヲ繼承シ帝國統治ノ大權ヲ總攬シ以テ踐祚ノ式ヲ行ヘリ舊章ニ率由シ先德ヲ聿修シ祖宗ノ遺緒ヲ墜ス無カラシムコトヲ幾庶  
フ  
惟フニ皇祖考叡聖文武ノ資ヲ以テ天業ヲ恢弘シ内文教ヲ敷キ外武功ヲ耀カシ千載  
不磨ノ憲章ヲ頒チ萬邦無比ノ國體ヲ鞏クセリ皇考夙ニ心ヲ養正ニ宅キ廼チ志ヲ繼  
明ニ尙クス不幸中道ニシテ聖體ノ不豫ナル朕儲貳ヲ以テ大政ヲ攝ス遽ニ登遐ニ遭  
ヒテ哀痛極リ罔シ但皇位ハ一日モ之ヲ曠クスヘカラス萬機ハ一日モ之ヲ廢スヘカ  
ラス哀ヲ衝ミ痛ヲ懷キ以テ大統ヲ嗣ケリ朕ノ寡薄ナル唯兢業トシテ負荷ノ重キニ  
任ヘサラムコトヲ之レ懼ル  
輓近世態漸ク以テ推移シ思想ハ動モスレハ趣舍相異ナルアリ經濟ハ時ニ利害同シ  
カラサルアリ此レ宜ク眼ヲ國家ノ大局ニ着ケ舉國一體共存共榮ヲ之レ圖リ國本ニ  
不拔ニ培ヒ民族ヲ無疆ニ蕃クシ以テ維新ノ宏謨ヲ顯揚セムコトヲ懋フヘシ

特254  
315

今ヤ世局ハ正ニ會通ノ運ニ際シ人文ハ恰モ更張ノ期ニ膺ル則チ我國ノ國是ハ日ニ  
進ムニ在リ日ニ新ニスルニアリ而シテ博ク中外ノ史ニ徵シ審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ進  
ムヤ其ノ序ニ循ヒ新ニスルヤ其ノ中ヲ執ル是レ深ク心ヲ用フヘキ所ナリ  
夫レ浮華ヲ斥ケ質實ヲ尙ヒ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ日進以テ會通ノ運ニ乘シ日新以  
テ更張ノ期ヲ啓キ人心惟レ同シク民風惟レ和シ汎ク一視同仁ノ化ヲ宣ヘ永ク四海  
同肥ノ誼ヲ敦クセンコトヲ是レ朕カ軫念最モ切ナル所ニシテ丕顯ナル皇祖考ノ遺  
訓ヲ明徵ニシ不承ナル皇考ノ遺志ヲ繼述スル所以ノモノ實ニ此ニ存ス有司其レ克  
ク朕カ意ヲ體シ皇祖考暨ヒ皇考ニ効セシ所ヲ以テ朕カ事ヲ匡弼シ朕カ事ヲ獎須シ  
億兆臣民ト俱ニ天壤無窮ノ寶祚ヲ扶翼セヨ



## 共存主義概要

小山卓夫



共存主義は共産主義ではありません、又社會主義でも無政府主義でも、個人主義でも民族主義でも國家主義でも國際主義でも協調主義でも或は又それ等の主義の長所を取り集めた混合主義でもないのであります。

即ち共存主義は飽まで共存主義であつて唯真理の示す處をそのままに誰に遠慮もなく主張するものであります。

若し何等かの共通點があるとすれば、それは英國人と日本人は異人種には相違ないが互に人類としての共通點があるのと同様な意味に於ての共通點でありまして斷じて模擬や異名同品ではないのであります、

即ち獨創的主張なのであります、

人の生存價值



我々は自己の意志に依て生れたものでも亦父母の意志に依て生れたものでもないのであります。

即ち絶対の神の意志に胎して生れたものであらねばならぬのであります。

此の意味に於て人の生存價値は絶対であり生存權は平等であります。

### 人の使命

我々は神より生命とそれを保育する力とを附與せられて宇宙の一角に生み出された以外に何事も命せられた覚えは無いのであります。

果して然らば我々は生み出された場所に於て與へられた生命を與へられた力に依て保育し天壽を全ふする事以外に使命はないと云ひ得るのであります。

従て與へられた力即ち生存力を發揮せずして生存することは許されぬのであります。

即ち生存力を否定することは生存權を否定することとなるのでありますから所謂共存は自立自營者の相互扶助的狀態を指すのでありまして斷じて遊惰なる者の方便として行はれるものであつては相成らぬのであります。

### 善の定義

我々の使命が生活する事にありとすれば何等遺憾なく生活することが善であらねばなりません。

而して善を人類相互の上に建設せんとする處に共存主義の使命があり共存主義者の仕事があるのであります。

此の意味に於て共存主義は倫理であり共存運動は社會倫理化運動であると云ひ得るのであります。

### 何等遺憾なき生活

生活とは社會を基礎とした生より死へ至る行程であります。故に社會的永續的のものであつて個人的瞬間的のものではないのであります。

果して然らば個人的瞬間的に何等遺憾なきを得ても社會的永續的に何等遺憾なきを得ないとするは斷じて善ではないのであります。

此の意味に於て共存共榮を完成善と名づけ放從無攝生を否定し利己主義を排斥するも



のであります。

### 人々の相違

物體は分子の結合に依て生ずる限り人も亦分子の結合體たるを失はぬのであります。A分子とB分子の結合物が二つないと云ふ定義に誤謬がない以上同一物は無く同一人はないのであります。

相違せる分子の結合に依て人類相互の相違が生ずるものとすれば、其生存力も相違するの當然であります、而して其相違する所以は共存せしめんが爲であります。何故ならば、部分品を集めて玉を作らんとするならば其各が玉であつてはならぬやうに共存共榮社會の部分品である個人は萬能であつてはならぬのであります、即ち能あり不能あつて始て共存する必要と共存する可能性とがあるのであります。此の意味に於て共存主義は個性を尊重するものであります。

### 社會の使命

社會は不平等なる生存力と平等なる生存權を有する個人を以て組織せられて居るもの

であるが故に其不平等なる生存力に依て平等なる生存權を保證して行く事が使命であるといはねばならぬのであります。

故に社會は個人の生活を保證すべき必然の義務があるのであつてそれを否定すべきものであつてはならぬのであります、

然らば強者が弱者を犠牲にする事も、多數が少數を無視する事も社會の使命に違背した事であると云はねばならぬのであります。

即ち強者は弱者の爲に存在し多數は少數の爲に存在するものであらねばならぬのであります。

此の意味に於て共存共榮は社會の使命なりと云ひ得るのであります。

### 社會と個人

社會と個人は恰も男女の關係の如く兩者の内何れが一方缺けても兩者共に存在し能はざるものであります。哲學上の術語を借りて云へば社會は個人の制約であり個人は社會の制約であると云ふことになるのであります。



即ち制約的關係は二者の對立に依て生ずる關係でありますが故に兩者の何れに偏しても不合理なる結果を生ずるのであります。

此の意味に於て社會を無視した個人主義も、個人を無視した社會主義も成立しないのであります。

### 生存力と經濟

生存力は其人々に依て異なるものであります但其行使の結果の總てが現代の經濟組織に依て完全に評價せられることは望み得られぬ事であり、しかも其經濟組織を基礎として生活しなければならぬとすれば其人のベストは必ずしも其人の生活を保證し向上せしむるものとはならぬのであります。

従て此の經濟組織に依て過分の評價を得られうる能力を有する者は遊食し乍ら猶餘裕があるに反し評價し得ない能力を有するものは終日終夜働いても衣食にすら窮することとなるのであります。

假令ば世に藝術は缺く可からざるものであつても其才能がない故を以て生存を否定せ

られることはないのであります、又米は生活上の必需品ではあります但其を作れる能力がない故を以て生存を否定せられぬに係はらず方便以上の價值を有さぬ金錢の獲得能力がない故を以て直ちに生活を脅威せられねばならぬものとすれば蓋し甚しき矛盾と云はねばならぬのであります。

即ち現代は方便の世の中でありまして實質の世の中ではないと云ひ得るのでありますから所世の要諦は要領にありと云ふ結論を生せしむるに至るのも無理ならぬ事であると思ふのであります。

米が木になると考へし程の米作上の無能力者にも必要だけの米を喰ふ事を許されることが不合理でない以上は金錢上の獲得能力の弱小なる故を以て必要だけの金額すらも與へられぬ事は不合理と云はなければならぬのであります。

然らば其有無に係はらず當然衣食住を保證するに足る金額は與へらる可きものでなければならぬのであります。

要するに生存力は必ずしも經濟と並行するものではないのでありますから經濟的能力



の相異優劣に依て生存権を壓迫せらる可き所以はないと云ふ事になるのであります。別言すれば生存力が絶対であると同時に生存権も絶対であるが故に生存力の行使の結果が生存権の絶対を否定すべきものであつてはならぬのであります。

#### 私有財産制度

共存主義は生存権の平等を認むるが故に生存力の不平等も認むるものでありますから従て其行使の結果即ち富の相違を認むるものであります。

此の意味に於て私有財産制度は合理的であるのであります。生存力の差は完成善實現の條件として認められるものであります。が故にその差の結果が善を破壊せる實情を顧るならばそこに一點の不合理が潜在する事を暗示せられるのであります。

即ち此の不合理は人と社會の制約的關係に依て生ずる處の財産を制約的に扱はずして個人的に扱つた結果に外ならぬのであります。

#### 共有財産制度

社會と個人は制約的關係にあるが故に其關係の上に成立した所のものは總て制約的に

取扱ふ可きものであると云ふ見解は動もすれば共有財産制度と解釋する者があるのであります。がそれは大なる誤解なのであります。

何故ならば制約的關係は二者の對立に依て生ずる關係であります。が故に二者の何れを偏重してもならぬのであります。から私有財産制度が不合理なると同様の意味に於て共有財産制度は不合理なのであります。

加ふるに完成善は人の能力の差を條件として始めて成立するものであるとすれば當然個性を發揮せしめなければならぬのであります。個性を發揮せしめんとすれば其の個性の相違に從て待遇しなければならぬのであります。

然るに其個性發揮の結果即ち富の差を均等にすることが共有財産制度なりとすれば個性の尊重は有名無實となるのであります。

絶対價値を有する個性を無視する事は神を無視する事であり神を無視する事は生存権の絶対を無視することとなるに於ては其誤謬の一層明なるを覺ゆるのであります。要するに私有財産制度は財産の獲得能力の強大なる者に有利な制度であります。が、共有



財産制度は反對に財産の獲得能力の弱小なる者に有利な制度であるに過ぎぬのであまりして兩者共に満足し能はざる點に於ては私有財産制度と何等撰ぶ所はないのであります。

尤も共産主義は最大多数の最大幸福を理想とするもので自らその理想を異にするものではありまうが果して最大多数の最大幸福を實現出來得るや否やは頗る疑問の存する處であります否絶対に不可能であると思ふのであります。

何故ならば或る一點を中心として円を書けば其の中心點に遠ざかるに従て円は順次に擴大せられるやうに資本家を中心とすればそれを圍遶した少數が時代の勢力家となり其中心に遠ざかるに従て円の擴大率に反比例して資本的勢力は次第に劣小となり人數は反對に多くなるのであります所謂無産者を中心とすれば同じくそれを圍遶する少數が其時代の勢力家となり支配階級となるのであります多数は依然として弱者たるを失はぬのであります、要するに被支配者の質が變るに過ぎぬのであります。

而も其の中心勢力者たる可き少數が何時の時代に於ても必ず聖人君子たる事を保證し

得ぬと同時に少數と多数の利害相反せぬ事を保證し得ぬとしたならば少數支配者が其力を利用して多数被支配者を壓迫せぬと誰が斷言し能ふであります。

况んやそれが最大多数の最大幸福てふ弱肉強食の異名同品的思想の持ち主なるに於てをやであります。

又生存力の相違せる人類を生存權が平等なる故を以て平等に取扱ふ事に依て生存權の平等を保證しやうとする事は一と二に、等しく一を加へて同一の和を得んとすること、何等撰ぶ處はないのであります其差は依然として一なのであります。

即ち生存力を異にする人間の總てを平等にせんとするならば生存力を如何にし平等にするかと云ふ問題を解決して後ちでなければ望む可くして行はれるものではないのであります、而してそれが不可能の事なりとすれば相違せる生存力に依て平等なる生存權を如何にして保證するかと云ふ問題を解決するにしくはないのであります。

#### 共存財産制度

既に社會が個人の生活を保證すべき當然の義務があるとすれば、社會は個人に對し



衣食住を保證するに足る金額を給與せねばならぬのでありますが給與すべき金額を醸出するには相當の財源を必要とするのであります。然らば此の財源こそは社會が個人に對して必ず作つて與へねばならぬ財産といはなければならぬのであります。

即ち之れを共存財産と名付け共存に依て生ずる利益金を共存利益金とし給與せらるゝ金員を共存配當金と名付けるのであります。

個人は個人であると同時に社會の一員でありますが故に自己の共存財産を作る爲に自己の力を盡すのは勿論であります。その力に放任して置くならば貯金と五十歩百歩で經濟的能力のない者は何時迄経つても出來ない事になるのであります。そこで社會の經濟能力のより大なる者の力が之れを援助せる事にならねばならぬのであります。併し無制限に援助する事は結局私有財産を否定する結果に立ち至るのでありますから各個人は同一率に従て其収入の繼續する限り積み立て、行くのであります。即ち之れを共存積立金と稱するのであります。

元來共存財産は所謂自由競争の結果が經濟的能力のない者の生存權を壓迫するものであつてはならぬと云ふ事を原則として出發したものでありますから總ての人に一定額を保證する事が原則となるのであります。

此の定められたる額を共存財産極限額と名付けるのであります。一従て或る者は數圓づゝ積み或る者は數萬圓づゝ積む結果として一方には數十年を積むとも極限額に達することが出來ぬ者があると同時に一方には僅々一ヶ月に満たずして優に極限額の數倍となる者もありません。

此の過額は其人の収入の一部が彼自身の最後の生活までも保證し終りたる殘額であると同時に共存の爲の財産として提供せらる可きものであります。故に未だ極限額に達せざる者に平均に均<sup>分</sup>して行くのであります。かくて相次で極限額に達したる者の積立金を未だ極限額に達せざる者に均<sup>分</sup>して行くのであります。然らば經濟的能力の劣少なる者も多くの歳月を要せずして衣食住を保證するに足る確定收入を得る事が出来るのでありますから經濟的能力のより大なる者の存在はより小なる者の存在の爲に



始めて喜ばる可き存在となるのであります。

而して共存財産は社會の力に依て作られ社會の力に依て利殖せられるものでありますから個人の負債の代償や低當の目的物とする事が出来ないと同時に共存配當金は衣食住以外の事に消費する責任を負担せしめぬ私有財産となるのであります。

此處に於て全く個人の生存權は社會に依つて保證せられた事になり經濟的共存は成立したものと云ひ得るのであります。

共存財産の全體が國家の管理する所となる當然の結果として個人の富力の増進は國富の増進となり政府が常に經濟的中心勢力となり國民の經濟的救濟機關としての實力を有する事となるのでありますから現代の如く政府が富豪の鼻息を視ふ如き不合理は根絶せられ處信に従ひ公平なる政治は意の儘に行ひ得る事となるのであります。

一方富豪の利する事は貧者の利する處であるを以て多數は其活躍を妨げざるが故に富豪の活躍は益々自由となり其能力は公然と遺憾なく發揮する事が出来る事となるのであります。

猶共存財産の運用に依て生ずる利益金は一部は極限額の所有者に配當し一部は國費に當て税金を廢し一部は未だ極限に達せざる者に共存財産積立助成金として分配するのであります、又營利會社の配當を一定し超過利益を共存財産積立助成金となし或は遺産の一部を之に當て或は國營事業を廢止して民間の活動範圍を擴し、一方國費經減の方法としては青少年團員に公務を分擔せしめ同時に教育を開放して理論と實際を並行せしめ、團體訓練を充分にして常備兵を縮少する等論じ來れば一齊にして止まらぬのであります。

要するに共存財産制度は生存權の絶對を信んずるが故に生存力の絶對を認め生存力を認むるが故に其行使の結果を尊重する意味に於て私有財産制度の廢すべからざる事を認むると同時に其の生存力行使の結果が生存權の絶對を否定する結果となつてはならぬと云ふ原則の下に共存財産を作る爲に同一率の協力を經濟的能力のより大なる者に負擔せしめんとする制度であります。



結 論

共存共榮を實現せんとするならば當然争闘を否定せねばならぬのであります。而して争闘は中心勢力の衰亡に依て最も其劇烈悲惨を極むるものでありますから争闘を防止せんとするならば絶対超越の中心勢力の確立を期さなければならぬのであります。

即ち絶対超越の中心勢力の確立は共存共榮の第一條件であるのであります。

然るに我大日本帝國は建國の當初より萬世一系の 天皇を戴きしかも皇室と國民との關係は親子の關係の如く絶対不可侵のものなるに於ては絶対超越の中心勢力として最も理想的なものであると思ふのであります。

此の意味に於て共存主義は皇室中心主義であり共存主義者は確乎たる皇室の藩屏なりと自負するものであります。

而して共存は個性の尊重に依て成立するものであります。故に共存を害せざる限り其者の意志に反して資格や身分や習慣や嗜好に干渉する事は許すべき事ではないと思ふのであります。

果して然らば萬國共存に反せざる範圍に於て國に對しては其國性を尊重しなければならぬのであります。即ち日本は日本としての國體に干渉せらる可きものではなく英國は英國として米國は米國として佛國は佛國として獨逸は獨逸として伊太利は伊太利として支那は支那として印度は印度として各其歴史と習慣に従て行く事に制肘せらる可きものではないのであります。

要するに共存の條件としての個性を認め萬國共存の條件としての國體を認むるものであります。故に苟も人たるものは其何國人たるか何人種たるかを問はず其個性の命する處に従つて其の好む所の國に生活するの自由を有さねばならぬと同時に如何なる國の國體修慣を冒瀆する自由を有してはならぬのであります。

此處に於て全世界の山野は全人類の爲に解放せられ人類共存の大本は創めて確立するのであります。

畢竟するには共存主義は完成善を條件とせる個人主義であり社會主義であり、國家主



313  
186

不許複製

昭和二年三月廿二日印刷  
昭和二年三月廿五日納本

發行所 大日本共存青年會

代表

著作兼 發行人 小山 卓夫

東京市神田區錦町三ノ廿三

中村 舜二 方

電話神田二四一四番

印刷人 信盛社・長島印刷所

長島 正作

東京市京橋區木挽町一ノ十四  
電話京橋五七三六番

義であり、國際主義であり民族主義であり、人種差別撤廢主義であると云ひ得るのであります。

思想も亦共存を妨げざるか阿々



終

